

適切に妊婦のトリアージや入院等に係るコーディネートを行う災害時小児周産期リエゾン等の人材の養成・活用について平時から検討します。

#### 4. 具体的な目標

##### (1) 成果と指標

施策の成果	ストラクチャー・プロセス指標	直近の実績 (2022年度)	(目標) 2029年
県内で周産期の高度医療が受けられる体制を構築すること	母体・新生児の県内搬送率	99.9%	100%
	母体・新生児搬送数のうち受入困難事例の件数	14件	0件
NICUで治療を受けた医療的ケア児が円滑に在宅ケアに移行し安心して療養できること	医療的ケアが必要な小児に対応可能な訪問看護ステーションが所在する医療圏数	6医療圏	8医療圏
効率的な周産期医療の連携体制が構築されること	周産期医療支援システム(すくすく)加入施設数	22施設	37施設
災害時や新興感染症の発生・まん延時に周産期医療体制が機能していること	災害時小児周産期リエゾン任命者数	17名	38名

最終的な成果	アウトカム指標	直近の実績	(目標) 2029年
乳児死亡率が全国平均を下回ること	出生千人対乳児死亡率	1.2 (2022年)	全国平均以下 (2022: 1.8)
新生児死亡率が全国平均を下回ること	出生千人対新生児死亡率	0.7 (2022年)	全国平均以下 (2022: 0.8)
周産期死亡率が全国平均を下回ること	周産期死亡率	3.3 (2022年)	全国平均以下 (2022: 3.3)
妊産婦の死亡をなくすこと	妊産婦死亡数	0人 (2022年)	0人
NICU・GCU長期入院児を減らすこと	NICU・GCU長期入院児数	1人 (2022年度)	0人

##### (2) 指標の説明

指標	説明
母体・新生児搬送数・県内搬送率	母体及び新生児の県外搬送数をゼロにして、県内での受入体制を構築することを目指します。
母体・新生児搬送数のうち受入困難事例の件数	NICU満床を原因とする受入困難事例を減少させることを目指します。
医療的ケアが必要な小児に対応可能な訪問看護ステーションが所在する医療圏数	周産期母子医療センターを退院した医療的ケアが必要な児を受け入れることができる訪問看護ステーションの地域偏在をなくすことを目指します。
周産期医療支援システム(すくすく)加入施設数	周産期医療支援システムに加入する産婦人科医療機関を増加させることを目指します。
災害時小児周産期リエゾン任命者数	災害時小児周産期リエゾン任命者数を増加させることを目指します。
出生千人対乳児死亡率	出生千人対乳児死亡率を低下させることを目指します。

出生千人対新生児死亡率	出生千人対新生死亡率を低下させることを目指します。
周産期死亡率	周産期死亡率を低下させることを目指します。
妊産婦死亡数	妊産婦死亡数をゼロにすることを目指します。
NICU・GCU 長期入院児数	NICU・GCU 長期入院児数を減少させることを目指します (長期入院とは、NICU 又は GCU に1年以上入院していることをいう。)